

# 【 津 久 見 市 】

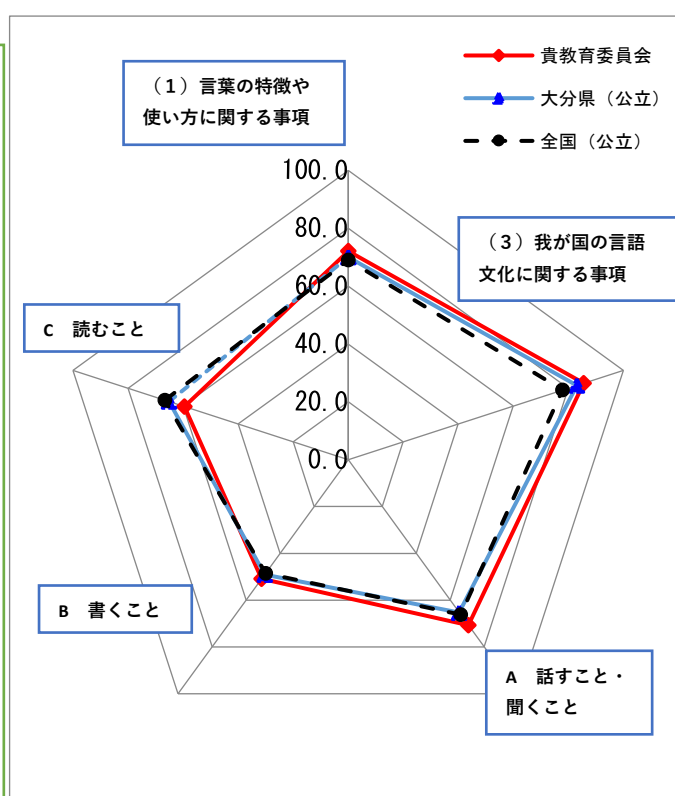
## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

			津久見市	大分県	全国
全体			66	66	65.6
学習指導要領の内容	知識・技能	言葉の特徴や使い方	74.3	72.2	70.5
	思考力・判断力・表現力等	A話すこと・聞くこと	70.7	65.3	66.2
		B書くこと	50.9	49.1	48.5
		C読むこと	59.5	65.1	66.6

#### 小学校：国語

- 全国の平均正答率は全国・県を上回った。
- 評価の観点では「知識・技能」は全国よりも3.8%高いが、「思考・判断・表現」は1.9%低い。その中でも「読むこと」に課題がある。
- 「読むこと」における4問全てで、県や全国を下回る結果である。
- 問題形式別で見ると、「記述式」の3問中2問が全国・県よりも低い結果となっている。また、他の問題に比べると無回答率が高くなっている。
- 無回答率は全て全国・県に比べて低かった。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

- 事実や経験を基に感じたり考えたりしたことを書くことの指導の充実
  - ・文や文章を整える推敲の場面や自分のお勧めの本や新聞記事などを紹介する場面で、文章全体の構成や書き表し方などに着目し、字数などの条件をもとに書く活動を設定すること。
- 「読むこと」における付けたい力を明確にした単元計画の作成
  - ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述や描写を基に、想像したことを伝え合う活動を通して、自分の思いや考えを広げることをねらった単元の設定。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		66	64	63.2
学指導要領の領域	A 数と計算	75.2	70.7	69.8
	B 図形	67.3	64.4	64
	C 測定			
	C 変化と関係	55.4	51.4	51.3
	D データの活用	64.9	68.8	68.7

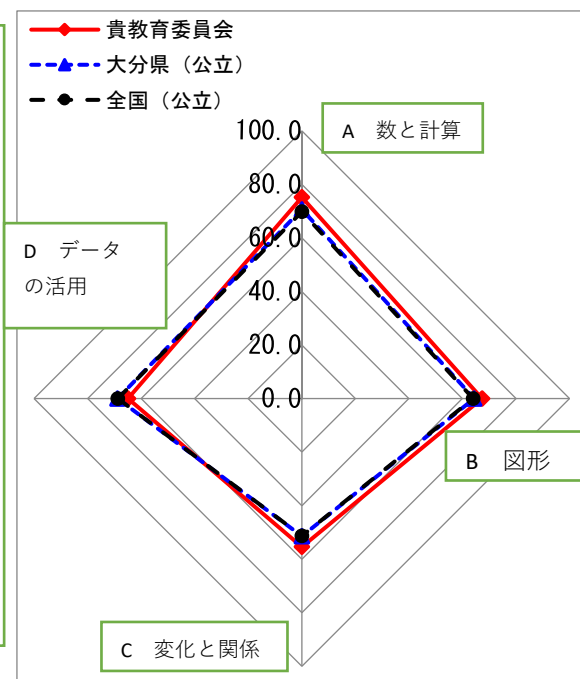
#### 小学校：算数

○全体正答率は、全国・県を上回った。

○領域別正答率では、D「データの活用」で、全国より3.8%下回ったが、その他の領域は全国・県よりも上回った。

○評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」においても全国・県を上回った。

○昨年度同様に、良い傾向として「式や言葉を使って説明する＝記述する」問題は、無回答率も低く、正答率も全国・県を上回った。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

##### ○継続的な取組

・立式の意味を考える授業展開は大事にされており、理由を説明するなど記述式の問題は、2年続けて良い結果が出ている。この良い結果を伝えた上で、今後とも「思考し、判断したことを表現する」活動を自信をもって授業の中に取り入れていく。

##### ○データに基づいて身の回りの問題を解決する活動

・目的に応じてデータを集めて整理分類し、データの特徴や傾向を分析して対策を立てる学習活動を教科横断的に仕組む。同時に、データを個人で分析する時間の確保、分析した結果を話し合う活動など必然性を持たせて行う。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

### 1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		66	64	63.3
学指導 要領の 領域	A エネルギー	48.9	51.9	51.6
	B 粒子	67.4	61.6	60.4
	C 生命	75.7	73.9	75
	C 地球	67.4	66.9	64.6

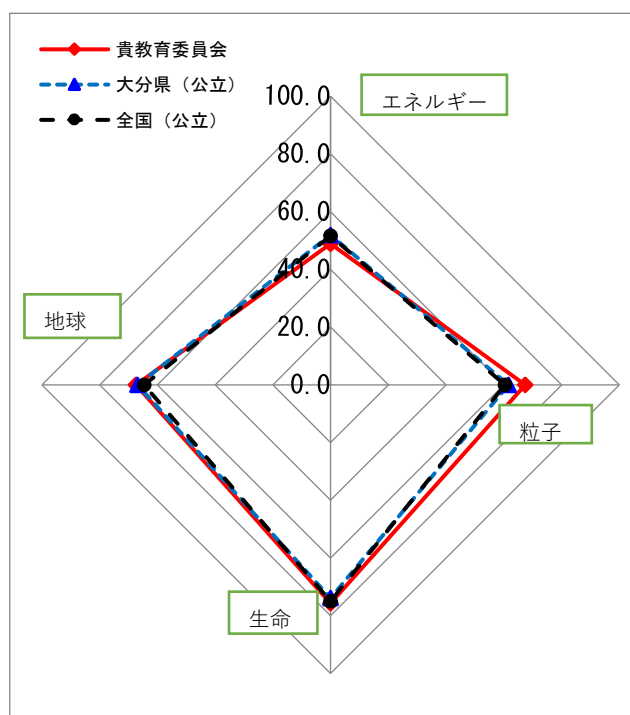
#### 小学校：理科

○全体の平均正答率は全国・県を上回っている。

○評価の観点「知識・技能」は全国よりも5.1%、「思考・判断・表現」では0.7%と、いずれも県や全国を上回っている。

●領域別正答率では、A「エネルギー」で、全国より2.7%下回ったが、その他の領域は全国・県を上回った。

○無回答率は全ての問題で全国・県に比べて低い。



### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：理科

##### ○知識・技能の捉え方の見直し

・「他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得する」＝概念的知識までねらった授業の設定。具体的に、基本的な知識を関連付けたり活用したりしながら概念を形成していくような授業の設定。

##### ○子ども自ら課題の設定，子ども自ら課題解決

・わかっていることから課題を見出す，課題にそって自分で実験方法を考えたり，追加された情報を基に実験方法の検討・改善をしたりする場面の設定。教師主導の授業から子ども主体の授業へ転換する。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・国語）

1 調査結果の分析			津久見市	大分県	全国
全体			66	69	69
学習指導要領 の内容	知識・技能	言葉の特徴や使い方	67.8	72.5	72.2
		情報の扱い方	35.5	47.9	46.5
		言語文化	71.7	70.6	70.2
	思考力・判断 力・表現力等	A話すこと・聞くこと	61.7	63.7	63.9
		B書くこと	35.5	47.9	46.5
		C読むこと	65.4	67.5	67.9

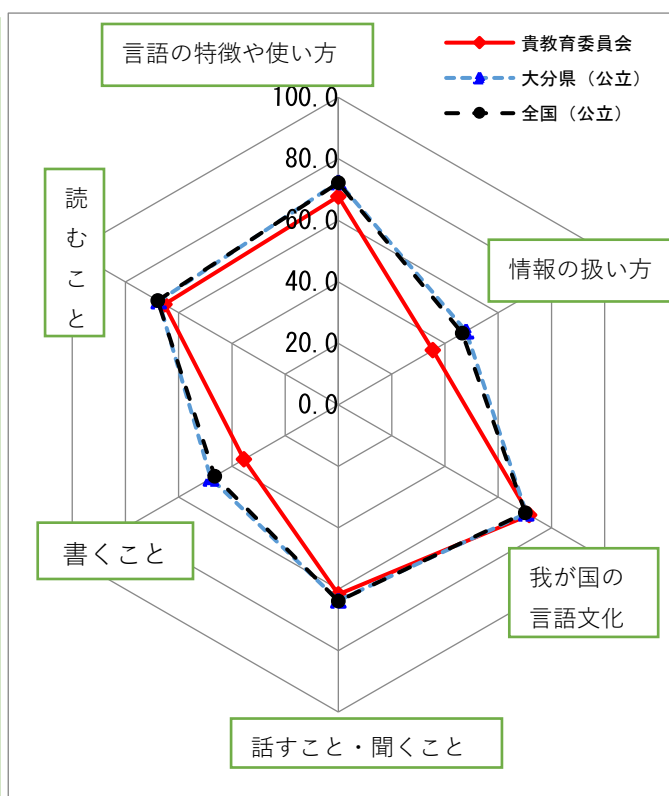
### 中学校：国語

●全体正答率は全国や県より0.3%下回っている。

●観点別「知識・技能」で3.3%「思考・判断・表現」3.7%下回っている。特に「知識・技能」における「情報の取り扱いに関する事項」では11%低い状況にあり、書くことにも課題がある。

●特に全国と比べて正答率に差があった問題は、表現の技法を問う問題であった。全国より16.1%県よりも14.7%低い結果であった。

○「我が国の言語文化に関する事項」では、行書の特徴や読みやすい書き方についての理解は全国や県よりも高い結果であった。



## 2 具体的な改善方策

### 中学校：国語

#### ○自分の考えを書く活動の設定

・日常生活や社会生活の中から課題を設定するなど目的意識を持たせて意見文を書かせる活動の設定。多様な考えができる事柄について自分の考えを持たせ、根拠を提示しながら意見文を発表させる。

#### ○単元で付けたい力の見直し

・文章の構造と内容を捉え、自分の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりする。つまり、他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりする学習活動を単元計画を通して設定。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校・数学）

### 1 調査結果の分析

全体		津久見市	大分県	全国
学指導要領 の領域	数と式	62.8	60.9	57.4
	図形	44.2	40.9	43.6
	関数	43.9	41.9	43.6
	データの活用	56.7	56.6	57.1

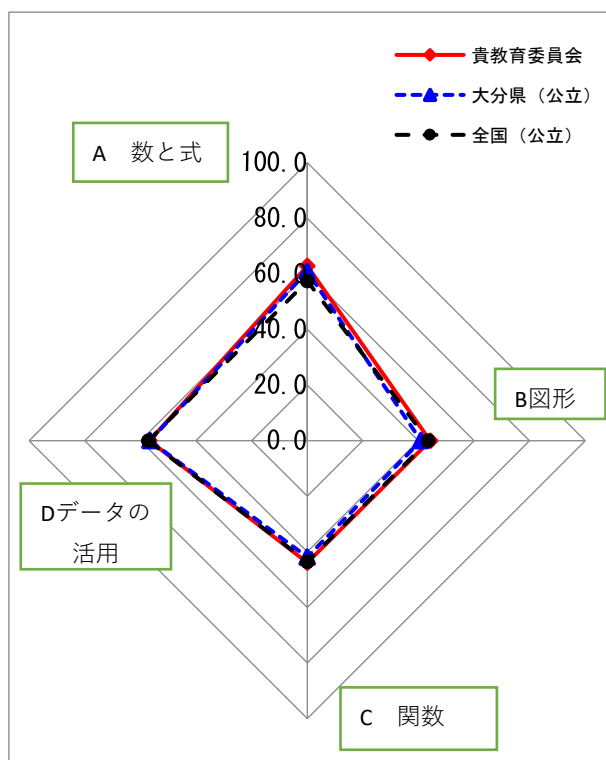
#### 中学校：数学

○全体正答率は全国より1.6%、県より1%上回ることができている。

○領域別正答率では「データの活用」以外の項目で全国を上回り、県よりは全ての項目で上回っている。

○特に「数と式」においては全国より5.4%高い結果となった。

●評価の観点で見ると、「知識・技能」は全国や県よりも4%以上高いものの、「思考・判断・表現」となると、全国や県を下回る結果となっている。



### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

○単元計画の中で「思考・判断・表現」の観点を確実に位置づける

・「思考・判断・表現」の観点を中心におき、評価規準を明確にした授業の設定。具体的に評価規準の中で付きたい資質能力を付けた子どもの姿をイメージした上で授業を実施する。

○図形についての性質や位置関係を理解し、考察し、説明する表現活動

・昨年に続いて「図形」領域では、「知識・技能」は得点を出せているものの、「思考・判断・表現」の観点で落ちてきている傾向がある。理解したことを基に、図形の基本的な性質などを具体的に活用する場面を設定。同時に論理的に説明する学習活動の設定。

○目的に応じたデータ収集から分析の経験

・データやグラフを適切に読み取り、データの傾向を捉えること、批判的に考察し判断する問題に対して、その判断の根拠を数学的に説明する学習活動の設定。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

### 1 調査結果の分析

		津久見市	大分県	全国
全体		46	49	49.3
学指導 要領の 領域	A エネルギー	39.6	41.8	41.9
	B 粒子	48.8	52.5	50.9
	C 生命	49.5	56.7	57.9
	C 地球	43	44.5	44.3

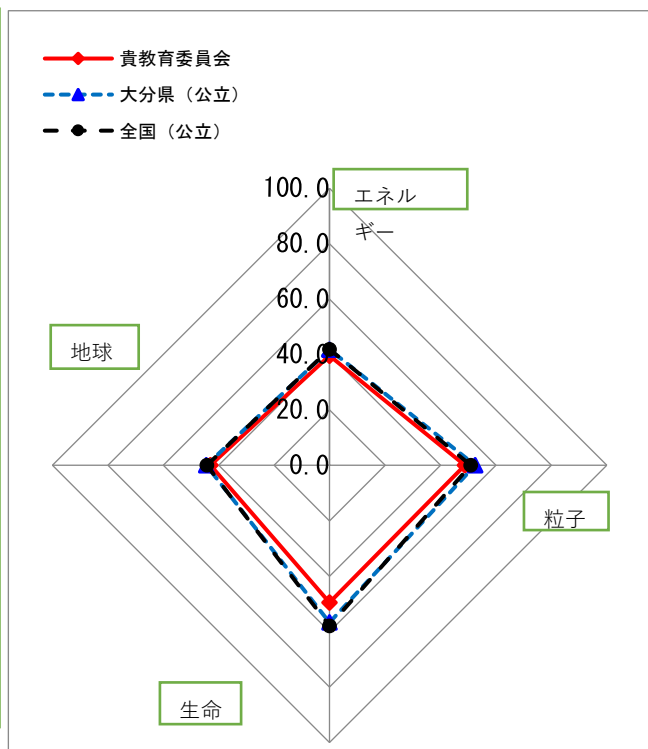
#### 中学校：理科

●全体の平均正答率は3%ほど全国・県を下回っている。

●評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも全国・県を下回っており、特に「思考・判断・表現」は全国よりも4.1%低い。

●領域別で見ると「C生命」で全国よりも8.4%、県よりも7.2%低い。

●全体的に無解答率は低いものの、説明や考察したことの記述に対する無解答率は高くなっている。



### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：理科

#### ○観点「思考・判断・表現」の中でも表現を意識した学習活動

・授業の中でどのような思考をさせ、どのように表現をさせているか見直す必要がある。事象から分析したり、解釈したり、既存の知識と関連付けて考えたりすることで予想を立てたりすること。またそれらを他者にわかるように説明する学習活動の設定。

#### ○概念的知識の獲得

・例えば、観察記録、実験結果の扱いが「知識・技能」だけの習得だけになっていないか見直しが必要。観察や実験の結果を基に分析、解釈するなど思考の流れを大切にしながら身に付けた知識・技能、概念的知識までねらった授業の設定。

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

各教科において「わかっているか」に対して肯定的に答える児童が国語90.1%、算数89.1%、理科91.8%。

各教科において「好きか」に対して肯定的に答える児童が国語54.9%、算数71.1%、理科71.1%。

「わかっているか」に対して「好きか」の肯定的な捉え方が低いことが危惧される場所である。

携帯電話等家の人と約束したことを守っているかに対して、肯定的な回答をした児童が75.6%。

生活習慣、発達への影響等、家庭と共に考えていきたい。

H31年より課題とされていた「自己肯定感」であったが、「自分には良いところがあるか」の問いに対して肯定的に答える児童がR3年度は82.1%、今年度86.6%と年々良くなっている。

#### 生徒質問紙

各教科において「わかっているか」に対して肯定的に答えるせいが国語71.1%、数学76.6%、理科63.6%。

各教科において「好きか」に対して肯定的に答える生徒が国語47.6%、数学65.4%、理科50.5%。

「わかっているか」に対して「好きか」の肯定的な捉え方が低いことが危惧される場所である。

携帯電話等家の人と約束したことを守っているかに対して、肯定的な回答をした生徒が61.7%。

家庭学習への影響、生活習慣への影響を家庭や生徒自身に理解してもらいたい。

「自分には良いところがあるか」の問いに対して肯定的に捉える生徒は、全国と比べて12.1%と低い。

### 2 津久見市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

#### 基本的生活習慣の徹底に向けた取組

- ・「つくみっこ子みんなで守ろう！」（「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「通信機器の使い方『つくみっ子を守る10か条』」）の周知のために、年度当初に全家庭に向けポスターを配付し、学校、保護者、地域と連携した取組の継続。

#### 自尊感情、規範意識、自己有用感の伸長に向けた取組

- ・児童生徒の頑張りや成果を周囲から「認められている」と実感させる取り組みの推進。
- ・道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の一層の充実。「人間関係づくりプログラム」研修の実施

#### 学習習慣の定着に向けた取組

- ・「家庭学習のすすめ」等の活用と、保護者との連携の推進。
- ・家庭学習の内容の検討。（授業と連動した家庭学習の推進）

#### 学級、学校生活の向上に向けた取組

- ・hyper-QU（年2回）を活用した、学び合い・支え合う学級集団づくりの推進・継続。
- ・安心して学べる、学びに向かう学習集団を意識した日々の授業改善

# 【 津 久 見 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

「授業中の私語が少なく落ち着いているか」に対して全ての学校が肯定的な回答をしている。学習環境や学習規律等、各小学校で組織的な取組が進んでおり、調査対象学年のみならず全体的に落ち着いている。

「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組」に対しても全ての学校が肯定的な回答をしている。児童質問紙の中では『自己肯定感』の低さが危惧されている。

ICTの活用による校務の軽減化については、肯定的に捉えていないことがわかる。授業時におけるICT機器の使用についても、活用回数が少ないことがわかる。

児童質問紙において危惧される「家庭学習の在り方」だが、学校としては課題の出し方について教職員で共通理解を図ることができている。家庭学習を教員の指導改善や児童の学習改善につなげることに課題がある。

#### 中学校：学校質問紙

生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組や、集団で挑戦する取組は計画的に行われている。生徒質問紙の中では『自己肯定感』の低さが危惧されている。

近隣の小学校との連携では、支援が必要な生徒や学力分析等の共通理解を図ることができている。

小学校が付けてきた力（強みとなるところ）を理解して伸ばしていくこと。

生徒質問紙において危惧される「家庭学習の在り方」だが、学校としては課題の出し方について教職員で共通理解を図ることができている。家庭学習を教員の指導改善や生徒の学習改善につなげることに課題がある。

ICTの活用による校務の軽減化については、肯定的に捉えていないことがわかる。

環境整備の必要性。

### 2 津久見市の学校質問紙調査の結果をふまえて

#### 組織的な取組の徹底

##### 教科横断的に仕組む授業の推進

- ・生きて働く知識・技能を習得するために教科を関連付け、学びの必要性に迫る単元計画の設定

#### 個別最適な学びが保障された指導の充実

- ・一授業の中で、支援が必要な児童を見とり・手立てを持つために評価規準の明確化
- ・ICT機器の効果的な活用

#### 家庭・地域との課題の共有，改善策の検討

- ・地域や保護者からの発信を意識して、学力向上会議等を設定